

東京中日スポーツ
 中日新聞東京本社 2015年(日刊)
 第21381号 5版
 2015年(平成27年)
12月16日
 水曜日 【仏滅】
 中日新聞東京本社
 〒100-8505
 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
 ☎03(6910)2211
 (昭和31年2月25日第3種郵便物認可)
<http://www.chunichi.co.jp/chuspo/>

武藤芳照の正義



じるのは、水木さんのたくまざるユーモア精神と人間愛、正義感、そして何よりも平和への強い願いが根底にあるからだろう。

若き日、太平洋戦争で水木さんは、一人の陸軍兵士として、激戦地バブアニューギニアのラバウルに送られた。辛くも生き延びたが、マリアリアに苦しみ、爆撃で左腕を失った。目の前で無念の死を遂げた数多くの戦友たちの思いや、生死の境をさまよった戦場経験が、戦記漫画「総員玉碎せよ」や妖怪た

妖怪たちの平和

ちの着想の源という。11月11日、自宅で転倒して頭部を打撲し、硬膜下血腫をきたし、緊急手術を受けた。一時は回復したが、11月30日未明に容体が悪化して亡くなった。

高齢になると、誰しも若いころに比べて転倒しやすくなる。左腕をなくしていた水木さんにとって、体のバランスを取ることは、とっさのときにバランスを立て直すことは容易ではなかっただろう。頭の骨(頭蓋骨)に密着している硬膜、その下

のかもしれない。人の生死は神様が決めること、人生を達観していた水木さん。今ごろは、鬼太郎と目玉おやじに案内され、

「学校もしけんもなんにもない」、仕事も締め切りもない、そして、爆撃もテロもない向こうの世界で、大好物の大福もちを食べ、世界を見守っていることだろう。多くの愛すべき妖怪たちをまわりで従えて。(日体大総合研究所 長)

パリの同時多発テロ事件後、フランスの動きに合わせて英国、ドイツ、米国が歩調を合わせて「イスラム国」への空爆等を強化している。ロシアとトルコとの関係もますます硬化し、世界全体が戦争の色彩が着実に濃くなってきた。

そうした情勢の中、日本を代表する漫画家水木しげるさん(93)が逝った。「ゲゲゲの鬼太郎」を生み出し、個性あふれ、どこか憎めないユーモラスな妖怪たちを数多く描いた。どこかの政治家に似ている「一反もめん」や「ねずみ男」。ご近所に現れそうな「砂かけばばあ」や「子泣きじい」など。本来、恐怖と不安を引き起こすはずの妖怪たちの姿が、なぜか魅力的に感